

雁 (1953)

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 104分
初公開日 1953/09/15

【解説】
森鷗外の同名原作を成沢昌茂が脚色し豊田四郎が監督した文芸作品。1966年には池広一夫監督・若尾文子主演でリメイクされた。
明治時代の東京、下町の長屋に住む善吉とお玉の父娘は、飴細工を売りながら貧しい生活を送っていた。お玉は知人の紹介で呉服商の末造の妻となり、本郷の無縁坂にある家に住まわせてもらっていた。しかし末造の本当の職業は高利貸しであり、しかも妻も子もある身だった。妾として家に囲われたお玉だったが、生活が楽になった父の姿を見ると、末造と別れることができなかった。ある日、無縁坂を散歩する医科大学生たちを見かけたお玉は、その中の岡田という学生に恋をしてしまう。お玉は末造の留守を狙って岡田に声をかけようとするのだが…。

【クレジット】
監督 豊田四郎
企画 平尾郁次
黒岩健而
原作 森鷗外
脚本 成沢昌茂
撮影 三浦光雄
美術監督 伊藤憲朔
美術 木村威夫
音楽 團伊玖磨
助監督 阿部毅
山崎徳次郎
井上芳夫
出演 高峰秀子 お玉
芥川比呂志 岡田
宇野重吉 木村
東野英治郎 末造
浦辺条子 妻・お常
飯田蝶子 おさん
小田切みき 女中・お梅
田中栄三 お玉の父・善吉
三宅邦子 お貞
姫路リエ子 お竹
宮田悦子 おみつ
山田禅二 太助

町田博子 妻